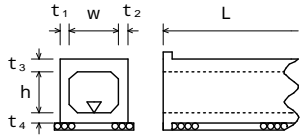
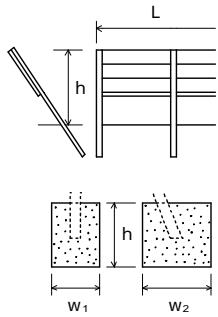


## 【第 10 編】道路編

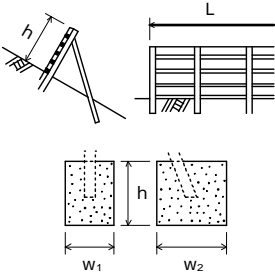
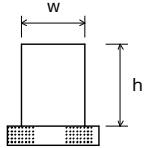
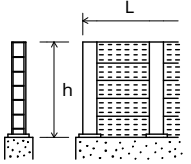
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
10 道 路 編	1 道 路 改 良	3 工 場 製 作 工	2	1	遮音壁支柱製作工	部 材	部材長 （m）	± 3... 10 ± 4... > 10
10 道 路 編	1 道 路 改 良	7 カ ル バ ー ト 工	6		場所打函渠工	基 準 高		± 30
						厚さ t <sub>1</sub> ~ t <sub>4</sub>		- 20
						幅（内法） w		- 30
						高 さ h		± 30
						延 長 L	L < 20m	- 50
							L 20m	- 100
10 道 路 編	1 道 路 改 良	9 落 石 雪 害 防 止 工	4		落石防止網工	幅 w		- 200
						延 長 L		- 200
10 道 路 編	1 道 路 改 良	9 落 石 雪 害 防 止 工	6		防雪柵工	高 さ h		± 30
						延 長 L		- 200
						基 礎	幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	- 30
							高 さ h	- 30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所で測定。		
両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所で測定。		
1 施工箇所毎		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	1 道 路 改 良	9 落 石 雪 害 防 止 工	7		雪崩予防柵工		高 さ h	± 30
							延 長 L	- 200
						基礎	幅 $w_1, w_2$	- 30
							高 さ h	- 30
						アンカー長	打 込 み	- 10%
							埋 込 み	- 5 %
10 道 路 編	1 道 路 改 良	10 遮 音 壁 工	4		遮音壁基礎工		幅 w	- 30
							高 さ h	- 30
							延 長 L	- 200
10 道 路 編	1 道 路 改 良	10 遮 音 壁 工	5		遮音壁本体工	支柱	間 隔 w	± 15
							ず れ a	10
							倒 れ d	$h \times 0.5\%$
							高 さ h	+ 30 , - 20
							延 長 L	- 200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m ( 測点間隔 25mの場合は 50m ) につき 1 箇所、施工延長 40m ( 又は 50m ) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎  全数		
施工延長 40m ( 測点間隔 25mの場合は 50m ) につき 1 箇所、施工延長 40m ( 又は 50m ) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 5 スパンにつき 1 箇所  1 施工箇所毎		

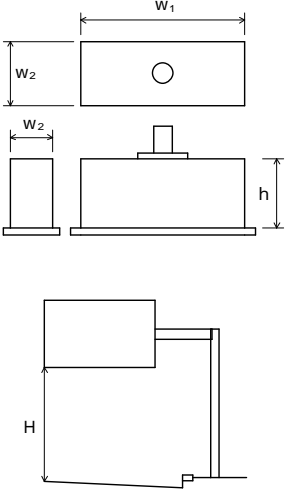
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規 格 値		
								個々の測定値 ( X )		10 個の測定値 の平均 ( $X_{10}$ )
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
10 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工		基準高	± 50		
							厚 さ	t < 15cm	- 30	- 10
								t 15cm	- 45	- 15
							幅	- 100		
10 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工		厚 さ	- 9		- 3
							幅	- 25		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は片側延長 40m毎に 1 箇所の割で測定。 厚さは、片側延長 200m毎に 1 箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長 80m毎に 1 箇所測定。  両端部 2 点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 ( $X_{10}$ ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。  コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、片側延長 80m毎に 1 箇所の割で測定。厚さは、片側延長 200m毎に 1 箇所コアを採取して測定。		

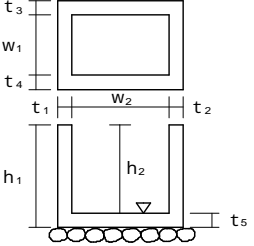
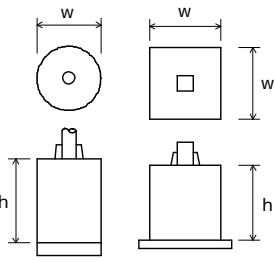
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	2 舗 装	4 排 水 構 造 物 工	9		排水性舗装用路肩排水工		基 準 高	± 30
							延 長 L	- 200
10 道 路 編	2 舗 装	6 踏 掛 版 工	4		踏掛版工 (コンクリート工)		基 準 高	± 20
							各 部 の 厚 さ	± 20
							各 部 の 長 さ	± 30
					(ラバーシュー)		各 部 の 長 さ	± 20
							厚 さ	
					(アンカーボルト)		中 心 の ず れ	± 20
							ア ン カ ー 長	± 20
10 道 路 編	2 舗 装	8 標 識 工	4	1	大型標識工 (標識基礎工)		幅 $w_1, w_2$	- 30
							高 さ h	- 30
10 道 路 編	2 舗 装	8 標 識 工	4	2	大型標識工 (標識柱工)		設置高さ H	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 箇所 / 1 施工箇所		
1 箇所 / 1 踏掛版		
1 箇所 / 1 踏掛版		
1 箇所 / 1 踏掛版		
全数		
全数		
全数		
基礎一基毎		
1 箇所 / 1 基		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	2 舗 装	11 道 路 付 属 施 設 工	5	1	ケーブル配管工	基 準 高	± 30
						延 長 L	- 200
10 道 路 編	2 舗 装	11 道 路 付 属 施 設 工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高	± 30
						厚 さ $t_1 \sim t_5$	- 20
						幅 $w_1, w_2$	- 30
						高 さ $h_1, h_2$	- 30
10 道 路 編	2 舗 装	11 道 路 付 属 施 設 工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	- 30
						高 さ h	- 30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
接続部間毎に 1 箇所 接続部間毎で全数		
1 箇所毎 印は、現場打ちのある場合		
1 箇所 / 1 施工箇所		



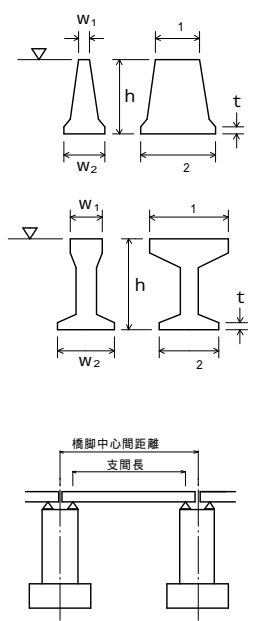
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	8		橋台躯体工		基 準 高	± 20
							厚 さ t	- 20
							天 端 幅 $w_1$ (橋軸方向)	- 10
							天 端 幅 $w_2$ (橋軸方向)	- 10
							敷 幅 $w_3$ (橋軸方向)	- 50
							高 さ $h_1$	- 50
							胸壁の高さ $h_2$	- 30
							天 端 長 $l_1$	- 50
							敷 長 $l_2$	- 50
							胸壁間距離	± 30
							支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
					アンカー ボルト の箱抜き規格値	鋼 製 支 承	計画高	- 30 ~ + 10
							平面位置	± 20
							アンカーボルト孔 の鉛直度	1 / 50 以下
						ゴ ム 支 承	計画高	- 20 ~ + 10
							平面位置	± 20
							アンカーボルト孔 の鉛直度	1 / 50 以下

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	<p>The figure contains three technical drawings. The top two are cross-sections of a bridge pier, showing dimensions <math>w_1</math>, <math>w_2</math>, <math>w_3</math>, <math>h_1</math>, <math>h_2</math>, and <math>t</math>. The bottom drawing is a plan view showing the pier spacing (支間長) and pier-to-pier distance (胸壁間距離).</p>	

単位：mm

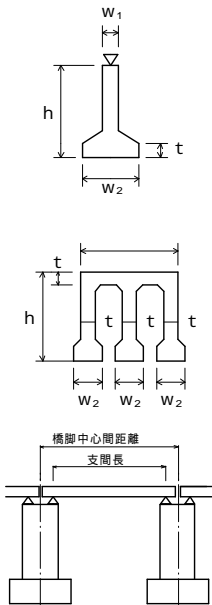
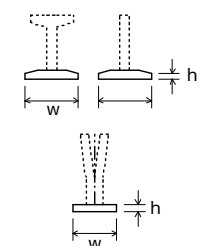
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	9	1	橋脚躯体工 (張出式)	基 準 高		± 20	
						厚 さ t		- 20	
						天 端 幅 $w_1$ (橋軸方向)		- 20	
						敷 幅 $w_2$ (橋軸方向)		- 50	
						高 さ h		- 50	
						天 端 長 $l_1$		- 50	
						敷 長 $l_2$		- 50	
						橋脚中心間距離		± 30	
						支 間 長 及 び 中心線の変位		± 50	
						アンカー ボルトの 箱抜き規格値	鋼製 支承	計画高	- 30 ~ + 10
								平面位置	± 20
								アンカーボルト孔 の 鉛直度	1 / 50 以下
							ゴム 支承	計画高	- 20 ~ + 10
								平面位置	± 20
								アンカーボルト孔 の 鉛直度	1 / 50 以下

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		



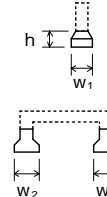
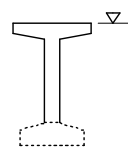
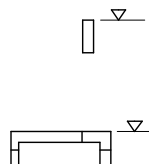
単位：mm

編 章	節 条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	4 橋脚躯体工 ( ラーメン式 )	基 準 高	± 20
				厚 さ t	- 20
				天 端 幅 $w_1$	- 20
				敷 幅 $w_2$	- 20
				高 さ h	- 50
				長 さ	- 20
				橋脚中心間距離	± 30
				支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	1 橋脚フーチング工 ( I 型 ・ T 型 )	基 準 高	± 20
				幅 $w$ ( 橋軸方向 )	- 50
				高 さ h	- 50
				長 さ	- 50

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		

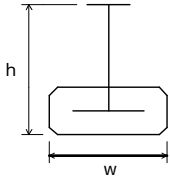
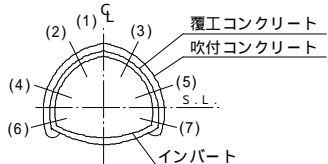
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	9	2	橋脚フーチング工 ( 門型 )	基 準 高	± 20
						幅 $w_1, w_2$	- 50
						高 さ $h$	- 50
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	10	1	橋脚架設工 ( I 型 ・ T 型 )	基 準 高	± 20
						橋脚中心間距離	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	10	2	橋脚架設工 ( 門型 )	基 準 高	± 20
						橋脚中心間距離	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 $t_1, t_2$ ( mm )	5 ± 5

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 は耐候性鋼材(裸使用)の場合		

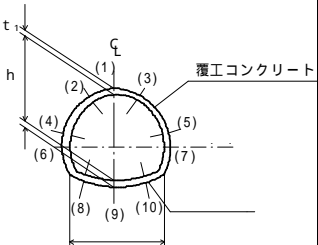
単位：mm

編 章 節 条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	4 3 9 鋼 橋 上 部 工 場 製 作 工	橋梁用高欄製作工	部 材 部材長 ( m )	± 3 ..... 10 ± 4 ..... > 10
10 道 路 編	5 5 2 コンクリート橋上部プレベーム桁橋工	プレベーム桁製作工 (現場)	幅 w 高 さ h 桁 長 スパン長 横方向最大タワミ	± 5 + 10 - 5 < 15... ± 10 15... ± ( - 5 ) かつ - 30mm 以内 0.8
10 道 路 編	6 4 3 トンネル ( NATM ) 支保工	吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の 1 / 3 以上を確保するものとする。
10 道 路 編	6 4 4 トンネル ( NATM ) 支保工	ロックボルト工	位 置 間 隔 角 度 削 孔 深 さ 孔 径 突 出 量	    プレート下面から10cm以内

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の 3 箇所とする。 ：スパン長		
施工延長 40m 毎に図に示す。 (1) ~ (7) 及び断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準 ( 構造編 ) にいう地盤等級 A 又は B に該当する地盤とする。		
施工延長 40m 毎に断面全本数検測。		

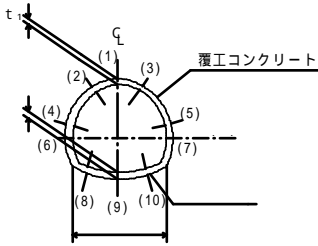
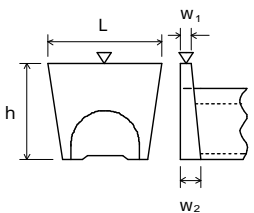
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	6 ト ン ネル ( N A T M )	5 覆 工	3		覆工コンクリート工	基準高(拱頂)	± 50
						幅 w (全幅)	- 50
						高さ h (内法)	- 50
						厚 さ $t_1, t_2$	設計値以上
						延 長 L	
10 道 路 編	6 ト ン ネル ( N A T M )	5 覆 工	5		床版コンクリート工	幅 w	- 50
						厚 さ t	- 30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>(1) 基準高、幅、高さは、施工 40m につき 1 箇所。</p> <p>(2) 厚さ</p> <p>(イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。</p> <p>(ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。</p> <p>(ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は 40m に 1 箇所、(2)～(3)は 100m に 1 箇所の割合で行う。</p> <p>なお、トンネル延長が 100m 以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上の検測孔による測定を行う。</p> <p>ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の 3 分の 1 以下のもの。</li> <li>・なお、変形が収束しているものに限る。</li> <li>・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。</li> <li>・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。</li> </ul>		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		

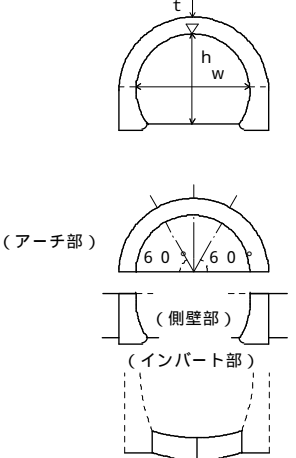
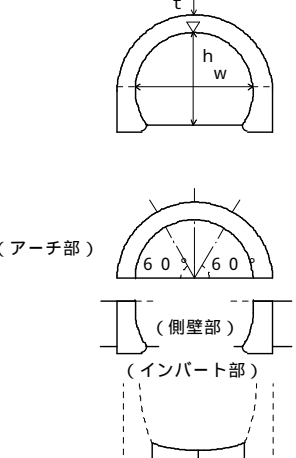
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
10 道 路 編	6 ト ン ネ ル （ N A T M ）	6 イ ン バ ー ト 工	4		インバート本体工	幅 $w$ （全幅）	- 50	
						厚    さ $t_1, t_2$	設計値以上	
						延            長 $L$		
10 道 路 編	6 ト ン ネ ル （ N A T M ）	8 坑 門 工	4		坑門本体工	基    準    高	± 50	
						幅 $w_1, w_2$	- 30	
						高 さ $h$	$h < 3\text{ m}$	- 50
							$h \geq 3\text{ m}$	- 100
						延            長 $L$	- 200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>(1) 幅は、施工 40mにつき 1 箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の (1) は 40m に 1 箇所、(2) ～ (3) は 100m に 1 箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が 100m 以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。</p>		
図面の主要寸法表示箇所にて測定。		

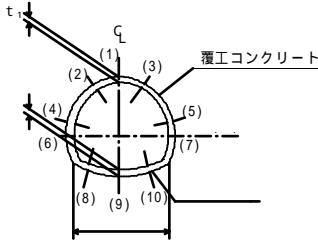
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	6 ト ン ネ ル ( N A T M )	8 坑 門 工	5		明り巻工		基準高 (拱頂)	± 50
							幅 w (全幅)	- 50
							高さ h (内法)	- 50
							厚 さ t	- 20
							延 長 L	
10 道 路 編	7 ト ン ネ ル ( 矢 板 )	5 覆 工	3		覆工コンクリート工		基準高 (拱頂)	± 50
							幅 w (全幅)	- 70
							高さ h (内法)	- 70
							厚 さ t	- 50
							延 長 L	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1箇所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点～において、厚さの測定を行う。		
(1) 基準高、幅、高さは、施工 40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に示す各点～で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点～の巻厚測定を行う。 ただし、上部半断面先進工法の場合～については上半のセントルの間隔程度でよい。 (ハ) せん孔による巻厚の測定は図の は40mに1箇所、～は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上のせん孔による測定を行う。 ただし、漏水の多い場合などで上記によることが好ましくない場合は、監督職員の指示により間隔を拡げることができる。		

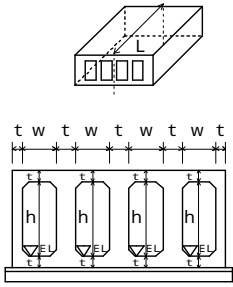
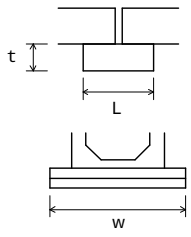
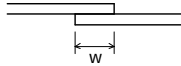
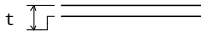
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	7 ト ン ネ ル （ 矢 板 ）	6 イ ン バ ー ト 工	4		インバート本体工		幅 $w$ （全幅）	- 50
							厚 さ $t_1, t_2$	設計値以上
							延 長 $L$	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>(1) 基準高、幅、高さは、施工 40mにつき 1 箇所。</p> <p>(2) 厚さ</p> <p>(イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の中間と終点を図に示す各点(1)～(10)で測定。</p> <p>(ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点(1)～(10)の巻厚測定を行う。</p> <p>ただし、上部半断面先進工法の場合(4)～(7)については上半のセントルの間隔程度でよい。</p> <p>(ハ) せん孔による巻厚の測定は図の(1)は 40mに 1 箇所、(2)～(3)は 100mに 1 箇所の割合で行う。</p> <p>なお、トンネル延長が 100m以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上のせん孔による測定を行う。</p> <p>ただし、漏水の多い場合などで上記によることが好ましくない場合は、監督職員の指示により間隔を拡げることができる。</p>		

単位：mm

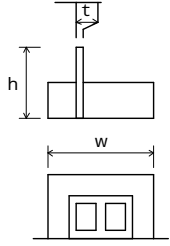
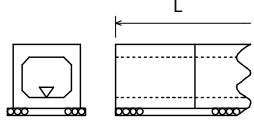
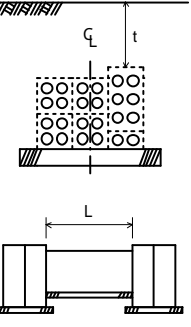
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	12 共 同 溝	5 現 場 打 構 築 工	2		現場打躯体工	基 準 高	± 30
						厚 さ t	- 20
						内 空 幅 w	- 30
						内 空 高 h	± 30
						ブロック長 L	- 50
10 道 路 編	12 共 同 溝	5 現 場 打 構 築 工	4		カラー継手工	厚 さ t	- 20
						幅 w	- 20
						長 さ L	- 20
10 道 路 編	12 共 同 溝	5 現 場 打 構 築 工	5	1	防水工 ( 防水 )	幅 w	設計値以上
10 道 路 編	12 共 同 溝	5 現 場 打 構 築 工	5	2	防水工 ( 防水保護工 )	厚 さ t	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		
両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版にて測定。		
両端・施工継手箇所の「四隅」にて測定。		



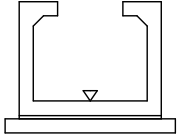
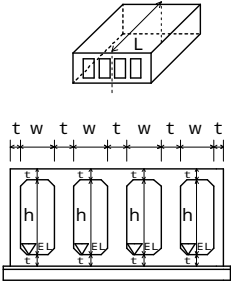
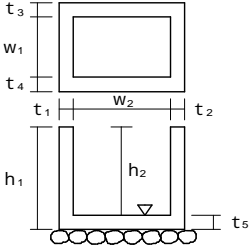
単位：mm

編 章 節 条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
10 道 路 編	12 共 同 溝	5 現 場 打 構 築 工	3 防水工 ( 防水壁 )	高 さ h	- 20
				幅 w	± 50
				厚 さ t	- 20
10 道 路 編	12 共 同 溝	6 プ レ キ ャ ス ト 構 築 工	2 プレキャスト躯体工	基 準 高	± 30
				延 長 L	- 200
10 道 路 編	13 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	2 管路工 ( 管路部 )	埋 設 深	0 ~ + 50
				延 長 L	- 200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
施工延長 40m ( 測点間隔 25m の場合は 50m ) につき 1 箇所、延長 40m ( 又は 50m ) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。 延長：1 施工箇所毎		
接続部 ( 地上機器部 ) 間毎に 1 箇所。 接続部 ( 地上機器部 ) 間毎で全数。 【管路センターで測定】	 接続部 ( 地上機器部 )      接続部 ( 地上機器部 )	

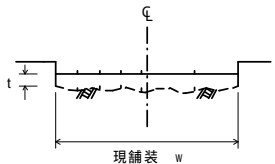
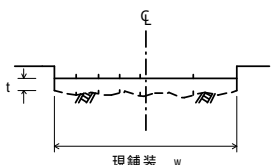
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道 路 編	13 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	3		プレキャストボックス工 (特殊部)	基 準 高	± 30
10 道 路 編	13 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	4		現場打ちボックス工 (特殊部)	基 準 高	± 30
						厚 さ t	- 20
						内 空 幅 w	- 30
						内 空 高 h	± 30
						ブロック長 L	- 50
10 道 路 編	13 電 線 共 同 溝	6 付 帯 設 備 工	2		ハンドホール工	基 準 高	± 30
						厚 さ $t_1 \sim t_5$	- 20
						幅 $w_1, w_2$	- 30
						高 さ $h_1, h_2$	- 30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
接続部（地上機器部）間毎に 1 箇所。		
両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所所で測定。		
1 箇所毎 は現場打部分のある場合		

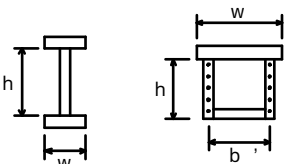
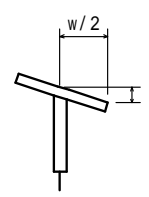
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )
10	15	4	5		切削オーバーレイ工	厚さ t	- 9	
						幅 w	- 25	
						延長 L	- 100	
						平 坦 性	3mプロファイル ( )2.4mm 以下 直読式 (足付き) ( )1.75mm 以下	
10	15	4	7		路上再生工	厚さ t	- 30	
						幅 w	- 50	
						延長 L	- 100	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>厚さは 40m 毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。</p> <p>幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、延長 40m 未満の場合は、2 箇所 / 施工箇所とする。</p> <p>断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。</p>	 <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は延長 80m 毎に 1 箇所の割で測定。厚さは、各車線 200m 毎に左右両端及び中央の 3 点を掘り起こして測定。</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目	規 格 値
10	17	3	4		桁補強材製作工		フ ラ ン ジ 幅 w ( m ) 腹 板 高 h ( m ) 腹 板 間 隔 b ( m )	$\pm 2 \dots$ $w \ 0.5$ $\pm 3 \dots$ $0.5 < w \ 1.0$ $\pm 4 \dots$ $1.0 < w \ 2.0$ $\pm ( 3 + w /$ $2 ) \dots 2.0 < w$
							フランジの直角度 ( mm )	w / 200
							圧縮材の曲がり ( mm )	/ 1000

測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
鋼げた等	トラス・アーチ等		
主げた・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I 型鋼げた      トラス弦材	
床組など	構造別に、5 部材につき 1 個抜き取った部材の中央付近を測定。		
主げた	各支点及び各支間中央付近を測定。		
	主要部材全数を測定。 ：部材長( mm )	